



## 中央会事業より

### 訪問介護事業での利用者への食事療法を学ぶ ～組合活力向上事業～

訪問介護事業や障害福祉サービス事業を実施している企業組合やまびこケアセンター(佐々木和子理事長)では、利用者の高齢化とともに介護の重度が増している中、糖尿病や腎臓病を患っている利用者の存在もあり、身体介助のみならず利用者の現状に合わせた特別食(治療食・療養食)を提供・管理することが欠かせなくなっています。そこで、特別食について知識を習得し、利用者一人一人に合わせた適切な食事を提供することでサービスの質を向上させ、重度の利用者を受入出来る体制を整えたいとしています。

研修は、BFホールディングス株式会社管理栄養士谷口典子氏が講師となり、7月23日(月)から10月23日(火)にかけて全4回行いました。在宅栄養指導では、症状がいくつもある利用者も多いが、指導する上で重要なのは優先順位を決めることです。何を制限するかポイントを押さえて、その食事を中心に献立をたてるようにします。2回目以降は調理

実習を交え、「糖尿病患者向け特別食」、「腎臓病患者向け特別食」、「摂食・嚥下障害向け特別食」で必要な知識習得を図りました。参加者からは、「塩分や調味料の調整が難しい」、「カリウムの調理法がよく分からなかった」、「ヘルパー全員が治療食・療養食を自信をもって作れるように研修を継続していきたい」などの感想もあり、他の業者との差別化を図ることで新規利用者の確保につなげていきたいとしています。



[調理実習の様子]

### 県外への販路拡大の実際を学ぶ ～連携組織化促進事業～

平成27年に大館市内の菓子製造業の後継者により設立した倶楽部スイーツ(大館市：大塚勇喜代表)では、枝豆を使った六次化商品『おおだてえだまめモナカ』を共同開発し、昨年度は県内を中心に約10万個を販売、今後、県外への販路開拓も目指しています。

そこで、11月14日(水)、大館市のプラザ杉の子において研修会を開催し、県外への販路拡大に必要な体制や営業活動の実際について学びました。

研修では、製造プロセスのデータ化による安定した味と品質、徹底した衛生管理が認め

られ、県内スーパーやショッピングセンターの他、全国にも販路を拡げている有限会社露月堂(横手市十文字町)の佐藤傳彦社長より、県外への販路拡大に向けた自社の取組内容やおおだてえだまめモナカに関する取引先の選定や商談方法、品質・衛生管理のポイントについて同業者の目線でアドバイスがありました。

出席した会員は、価格や消費期限など商品の属性に合わせた取引先の絞り込みや商談をまとめ易くするノウハウを得られたと、県外への販路拡大に向けた手応えを感じていました。



[佐藤社長と活発な意見交換を行う参加者]



[おおだてえだまめモナカ]

# 2018年 秋の叙勲・褒賞受章 おめでとうございます



旭日双光章

## 地方自治功労

秋田県素材生産流通  
協同組合  
理事長  
兼子 富市 氏  
(北日本索道株式会社  
代表取締役)



旭日単光章

## 中小企業振興功労

秋田市工業団地  
協同組合  
理事長  
伊藤 和宏 氏  
(株式会社イトー鑄造  
代表取締役会長)



黄綬褒章

## 業務精励

協同組合  
秋田ドライウッド  
理事長  
沓澤 一英 氏  
(株式会社沓澤製材所  
代表取締役)

受章された皆様の今後  
益々のご隆盛とご活躍を  
ご祈念申し上げます。

## 新設組合紹介

### 秋田杉桶樽協同組合

～伝統工芸品の技術承継と地産地消を目指して～



【清水理事長】

#### 【組合の紹介・PR】

秋田杉桶樽は、昭和58年に協同組合を設立し、翌、昭和59年には国の伝統工芸品「秋田杉桶樽」の指定を受け、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づく振興計画の認定等により地場産業の維持に

鋭意努力して参りましたが、その後、時代の流れとともに、やむを得ず、事業の継続を任意団体での活動へと変更いたしました。

しかし、事業を進める中で商標登録の申請や各支援機関からの支援、伝統技術の継承や後継者の確保等に関しては、会員一人一人が努力しても、任意団体という組織の脆弱さを実感させられました。そこで、このたび、会員の総意をもって、協同組合を再び設立することといたしました。

組合活動をする上で、清水理事長は「古来からの伝統工法を守りながら、現代生活に使える道具としての桶の開発も必要不可欠と感じております。今後も関係者のご協力・ご指導をいただきながら、人材育成・商品開発・良質材の確保等、進めていけたらと思います。」と抱負を述べています。

- 所在地 秋田市川尻町字大川反170番169号
- 代表理事 清水 康孝
- 出資金 100,000円
- 地区 秋田県の区域
- 組合員数 5名
- 主な事業 桶樽製品の共同販売事業  
桶樽製品の原材料の共同購買事業  
桶樽製品の共同検査事業
- 成立年月日 平成30年11月7日

**次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、  
くるみん認定・プラチナくるみん認定を目指しましょう!!!**

次世代育成支援対策推進法では、企業は、労働者の仕事と子育てに関する「一般事業主行動計画」を策定することとなっており、常時雇用する労働者が101人以上の企業は、この行動計画を策定し、その旨を都道府県労働局に届け出ることが義務とされ、一般への公表、労働者への周知についても義務付けられています。(100人以下の企業は努力義務です。)

行動計画を策定して、「子育てサポート企業」の認定に向けて是非取り組んでください。

**一般事業主行動計画とは…**

企業が、従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含め多様な労働条件の整備などの取組を行うために、

- ① 計画期間
- ② 目 標
- ③ 目標を達成するための対策の内容と実施時期

の3つの事項を定める行動計画のことです。

**くるみんマーク・プラチナくるみんマークとは…**

一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業は、申請を行うことによって「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん認証)を受けることができます。さらに、平成27年4月からは、くるみん認証を既に受け、相当程度両立支援制度の導入や利用が進み、高い水準の取組を行っている企業を評価しつつ、継続的な取組を促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



**【問い合わせ先】**

秋田県中小企業団体中央会 総務企画部  
電話：018-863-8701  
(次世代育成支援対策推進センター)

**中小企業退職金共済法に基づく退職金制度を活用しましょう！**

**安全・有利・手軽な**  
**国の退職金制度を活用しませんか。**

事業主さん

**中退共**

**退職金共済制度**

詳しくは  
ホームページをご覧ください。

**国の制度だから安心**  
掛金の一部を国が助成します。

**掛金は全額非課税**  
手数料もかかりません。

**社外積立で管理も簡単**  
退職金試算額などをお知らせします。

(独)勤労者退職金共済機構 中小企業退職金共済事業本部 TEL(03)6907-1234 FAX(03)5955-8211

## 外国人技能実習生が日本の歌を熱唱

～秋田県外国人技能実習生受入組合連絡協議会～

11月10日(土)、秋田市のイヤタカにおいて、秋田県外国人技能実習生受入組合連絡協議会(村田孝治会長)が主催する「日本語スピーチ&日本の歌コンテスト」が開催されました。今年で第5回目となるこのコンテストは、外国人技能実習生にコミュニケーションの要となる日本語の能力向上を披露する場として当協議会が毎年開催しているものです。

今回は、会員組合に加入している6企業から計9名(中国3名、フィリピン6名)の技能実習生が日頃の語学研修の成果を披露するために出場しました。コンテストでは、実習生が日本での生活や文化に対して感じたことを日本語でスピーチした後、それぞれが好きな日本の歌を歌いあげる歌唱力に会場は大いに盛り上がりました。審査は総合点で競い合い最優秀賞には、長山洋子の「愛ありがとう」を歌った邨雪治(ツォシュエジェ)さん(コーディネーター

秋田協同組合)が選ばれたほか、各賞に選ばれた出場者には表彰状と副賞が贈呈されました。

コンテスト終了後には懇親会が催され、普段交流のない他企業の実習生との交流が図られるなど実習生にとって刺激となった様子でした。



[コンテスト会場の様子]

## 建物のリノベーションと街の再生を学ぶ

～秋田県中小企業組合士会～  
～秋田県中小企業団体事務局協議会～

経済事業を積極的に展開している組合では、事務局に専従の役職員を配置して運営を行っていますが、社会環境の変化によって組合を取り巻く状況は厳しくなっています。

そこで、組合運営の要である事務局の役割が、ますます重要となってきたことから、組合事務局役職員の資質向上と事務局体制の充実・強化を目的として、秋田県中小企業組合士会(堀川深雪会長)と秋田県中小企業団体事務局協議会(佐藤弘幸会長)の共催による研修会が11月2日(金)、秋田市の第一会館において、会員29名の出席のもと開催されました。

この研修会では、グラフィックデザインをはじめ、各種デザイン制作の分野で「想いを伝える。人と人をつなげていく。」をコンセプトにクリエイションを実践し、クライアントに提案している株式会社See Visions代表取締役東海林諭宣氏を講師に迎え、「街、モノ、企業を変えるクリエイティブ力」と題し、建物のリノベーションが街の小さなエリアに変化を与え、賑わいを誘引している自社の取り組みが紹介されました。東海林社長は現在、秋田市南通商店街街区で「カメバル」のほか飲食店2店舗を展開、プロデュース並びに運営を行って

おり、「街、地方の熱量をあげるためには『拠点』を初めにつくろうと考えた。人と人がつながる場所があることで、街の賑わいにつながる。今後も周辺の商店街とも連携しながら街全体の活性化に取り組みたいと考えている。」との講演がありました。参加者からは「これまでの事務関係の研修と違い、経営者が秋田を元気にする事例は普段聞くことがなく、新鮮で良かった。」等の声が聞かれました。両団体とも引き続き、会員組合の事務局役職員の資質向上等を通じ、組合運営の円滑化や組合事業の活性化を図っていくこととしています。



[講演する東海林社長]

地方の商店街の多くは、経営者の高齢化や後継者難、来街客の減少、空き店舗の増加等の問題を抱えています。空き店舗問題を深刻化させているのは、後継者難などに伴う廃業の増加です。これは商店街の地域コミュニティの場としての機能や店舗構成における業種バランスを低下させる原因となっています。そこで、秋田県商店街振興組合連合会(平澤孝夫理事長)では11月5日(月)、秋田市のイヤタカにおいて、今後の商店街のあり方について考えるため、宮崎県日南市で商店街の再生に取り組んだ油津商店街の事例について研修しました。

講師には、日南市のテナントミックスサポートマネージャー(空き店舗活用の責任者)として4年間活動した株式会社ホーホウ代表取締役(株式会社油津応援団専務取締役)木藤亮太氏を迎え、「4年で29店舗の新規出店・企業誘致を実現させたキーマンが語る”シャッター通りの再生”とは」をテーマに自身の実践した経験が語られました。

この中で木藤氏は、「町の人に愛されていた元喫茶店をカフェに改装したことが最初の契機となった。以前のたたずまいを残しつつ、新しいリノベーションを行ったことで、あるものを活かす取組、デザインした場所から共感を生むきっかけとなっている。まちづくりする上で、今と昔では顧客も業態も大きく違っている。その土地・時代・マーケットに合った商店街にゼロベースでデザインしていくことが本当の意味での商店街の再生である。」と締めくくりました。



[研修会場の様子]

## 中央会職員コラム

本会では、皆様に中央会の職員をより身近に知っていただくため、「中央会職員コラム」を連載しております。どうぞご覧下さい。

事業振興部の加藤謙太です。中央会に入職し今年で18年目、社会人になってからは30年目という節目を迎えました。『光陰矢の如し』という言葉の意味を最近より強く感じるようになりました。諸説ありますが、年齢とともに時間が経つのが早く感じる原因には、『慣れ』や『マンネリ化』があるとのこと。

振り返ると、私が社会人となったのはバブル末期の1989年、まさに時代が昭和から平成になった年でした。前職では、世界遺産富士山が目前に広がる静岡の事業所で製造業に従事していました。赴任当日初めて間近で見た富士山に、「おっ、すごい!!」と思わず言葉が漏れるくらい感動したのを覚えています。ただ、不思議なもので、『慣れ』なのでしょう。5年、そして10年と過ごす時間を重ねる中で、段々、富士山は日常化し、“当然そこにある普通のもの”になってしまった気がします(もちろんですが、秋田に戻ってから、富士山の素晴らしさをあらためて認識することになりました)。

現在、秋田に戻り18年、この原稿を書く中で、もしかしたら『慣れ』の中で、価値ある

様々なモノを見落としていないか、また自身の業務の中にも『マンネリ化』がないかを今一度と顧みる必要があると考えさせられたところです。

先に、時間経過が早く感じる原因として『慣れ』、『マンネリ化』があると書きましたが、それには『刺激』が有効な対策となり得るそうです。来年は新たな元号が始まるという大きな節目の年となります。会員の皆さんにとっても、良い意味で刺激的な時代となり、秋田がさらに魅力有る地域になるよう、私自身も微力ながら参加して行きたいと思っています。

最後に、平成30年も残すところあと少しとなりました。少々早いですが今年1年間大変お世話になり、ありがとうございました。本紙面をお借りし御礼申し上げます。これからも中央会共々よろしくお願い致します。



[記 事業振興部長兼工業振興課長 加藤謙太]